

宇部幸楽苑広報紙

幸楽苑だより

11号

発行元：介護老人保健施設 宇部幸楽苑
 発行日：令和6年 11月1日
 TEL 0836-51-3113 FAX 0836-51-5522

『明るく優しく敬意をもって』
 理学療法士 植田 洋平

今夏、岡山県で開催された中国地区介護老人保健施設大会に参加しました。印象的だったのが、ホール会場での開会式の際に司会進行役として紹介されたのは、画面に映し出されたアニメーションの桃太郎君で、その音声はAI（人工知能）を利用したものでした。かなり自然で違和感がなく、皆さん驚かれています。最近では、様々な場面でAI・情報通信技術が活用され、われわれの生活は益々便利になっています。

医療・介護の現場においても、超高齢化・人口減少の時代を迎えるにあたり、介護人材の不足が問題とされるなかで技術導入が始まっています。講演では、先進的な施設の取り組み事例として、プライバシーに配慮したカメラ・センサーによる居室の見守り、職員間のインカムによる連絡、音声入力による記録などが示され、利用者の安全、介護サービスの質を確保しつつ、職員の負担軽減を図るのに非常に効果的であると紹介されていました。

その施設では、利用者に対する「トイレ介助」や「入浴介助」といった直接介護は行わず、それ以外の周辺業務を主にを行い介護職員をサポートする職種である介護助手の導入を推進しており、業務を行うのに不可欠になっているとのことでした。また、ほかの施設における人材の確保・定着に向けたいろいろな取り組みを知ることができました。

当苑においても人材確保は課題となっており、今年度から介護助手を導入して、職員間で協力して入所者に対するケアサービスの質向上に取り組んでいます。

介護助手においては、元気高齢者の活躍が期待されており、ご自身の健康づくり、「生きがいづくり」「地域貢献」の意味でもプラスであり注目されています。ぜひ、われわれと共に働いてみませんか。お待ちしております！



《基本理念》

私たちはサービス提供者として、常に、地域社会における入所者様・ご家族並びに利用者の立場に立って考え、最善の行動を致します。

《運営方針》

- 1.常に笑顔で誠意のある対応を心掛けます。
- 2.説明と同意の実践に努め、納得いただける施設サービスを実施致します。
- 3.人権を尊重し、入所者様・ご家族と共に職員が一丸となって自立生活の支援を致します。
- 4.個人の尊厳とプライバシーの保護に努めます。
- 5.疾病や障害の予防と適切な施設サービスを提供致します。
- 6.地域社会と連携して質の高い施設となるよう努力し、職員は日々研鑽に努めます。

〇〇の秋

十一月に入り、ようやく過ごしやすい季節になって参りました。皆様、いかがお過ごしでしょうか？

『食欲の秋』、『芸術の秋』、『スポーツの秋』と様々な秋の過ごし方がありますが今回は『スポーツの秋』に関連した、骨粗鬆症予防の運動を紹介したいと思います。

骨粗鬆症を予防するためには、カルシウムの摂取とビタミンDを体内で合成するために必要な日光浴に加えて、ウォーキングや筋力トレーニングなど、骨に刺激が加わる運動が推奨されています。

天候に左右されない室内でも行うことのできる骨刺激運動として左図の方法を試してみたいかがでしょうか！



- ① つま先立ちになり、
- ② 力を抜いてストンと踵を床に落とします

「苑外散策」

今年も残り2か月となりました。気候も良くなってきた為、毎年恒例の苑外散策に行きたいと思えます。

前回（6月）には、山口宇部空港にバラを見に行きました。

今回はどこに何を見に行くのでしょうか？

来月号で、その答えは明らかになると思えます。

その際には、その時の写真も掲載できたらと思えますので、楽しみにお待ち下さい。



「徒然なるままに…」

介護士 石橋 未璃衣

この度、宇部幸楽苑を退職することになりました。何もわからないことだらけの私に、職員をはじめ利用者の皆様方に優しくご指導いただき本当にありがとうございました。宇部幸楽苑では、思いやりを持って接することの大切さ、楽しく安心して過ごせるよう考える事の大切さなどをたくさん学ばせて頂きました。

最期になります、これからも一歩一歩前に進めるように頑張りたいと思います。

本当に恵まれた環境下でお仕事が出来た事を心から感謝しています。

約8年間ありがとうございました。

今まで
ありがとう
ございました！

